

# 令和6(2024)年度 病害虫発生予報 第2号

令和6(2024)年5月17日  
栃木県農業総合研究センター  
環境技術指導部

## 平年より高温多雨が予想されるため、病害虫の増加に注意しましょう！

予想期間 5月下旬～6月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠 ・ 昨年10月の再生稲調査での本病の発生は平年並(ほ場率：64%、株率：4%)。(±)  
昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の発生量はやや少なかった。(－)  
向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対策 ・ 昨年発生の多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備考 ・ [令和5\(2023\)年度植物防疫ニュース No. 10](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 麦類 赤かび病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量は多い(ほ場率：平年比1040%)。(＋)  
向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±～＋)
- (3) 対策 ・ 開花・出穂期での発生がない場合でも、不稔粒発生や曇雨天などによって登熟期後半に多発することがある。今年は県全域において既に赤かび病の発生が確認されているので、ほ場をよく確認し、収穫前日数に注意して追加防除を行う。
- (4) 備考 ・ [令和6\(2024\)年度植物防疫ニュース No. 1](#)、[No. 2](#)、[令和6\(2024\)年度病害虫発生予察注意報第2号](#)を当センターHPに掲載中。

### 3 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比100%、株率：平年比159%)。(±～＋)  
向こう1か月の降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対策 ・ 多湿条件において発生しやすいので、施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、結露防止に努める。  
発病した葉、果実、花卉等は伝染源となるため、速やかに取り除き施設外で処分する。  
発生状況に応じてセイビアーフロアブル20(F:12)等を散布する。
- (4) 備考 ・ [灰色かび病薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 きゅうり べと病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量は平年並(ほ場率：平年比105%、株率：平年比153%)。(±)  
向こう1か月の降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±)
- (3) 対策 ・ 多湿条件で多発するので、適正なかん水と喚気を行う。  
草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。  
予防を主体にジャストフィットフロアブル(F:43、40)等を散布する。
- (4) 備考 ・ [キュウリべと病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 果樹 カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 現在のフェロモントラップへの誘殺数は多い。(＋)  
向こう1か月の気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対策 ・ 夜間の気温及び湿度が高いと予想される日には、日没以降にカメムシ類が多く飛来するおそれがあるため注意する。  
4mm目合い以下の多目的防災網で園全体を被覆し、被害を防止する。
- (4) 備考 ・ 山林に隣接したほ場や、過去に被害が大きかったほ場では特に注意する。  
[令和6\(2024\)年度病害虫発生予察注意報第1号](#)を当センターHPに掲載中。

### 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠 ・ 現在の発生量はやや多い(ほ場率：平年比98%、株率：平年比270%)。(＋)  
向こう1か月の気温は高く、日照時間はほぼ平年並の見込み。(±～＋)

- (3) 対策 ・ ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
 ・ 化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考 ・ [園芸作物に発生したナミハダニの薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
トマト	葉かび病	平年並	平年並	きゅうり	コナジラミ類	平年並	やや多
	うどんこ病	平年並	平年並	なし	黒星病	平年並	平年並
	コナジラミ類	やや多	多		アブラムシ類	平年並	やや多
きゅうり	うどんこ病	平年並	平年並				

### ○施設栽培の病害虫

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、**栽培終了時にハウスの密閉蒸し込みを行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。**特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病(TYLCV：タバココナジラミ)やトマト黄化病(ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病(MYSV)を媒介するため、注意が必要です。
- ・ いちごは親株と本ぼの管理作業が重なる時期です。本ぼで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ぼ作業後に親株の管理作業を行わないようにしましょう。

### ○定植前後の防除の徹底

- ・ なす・ねぎ・にら等の野菜類では、定植前後の病害虫防除が重要です。育苗・定植時の粒剤・かん注剤の使用や、定植後の適切な薬剤散布により被害防止に努めましょう。

### ○うめ・もも・すもも等 クビアカツヤカミキリ(特定外来生物)

- ・ 暖かくなると幼虫の動きが活発になるため、フラス(木くず)の排出が盛んになります。県内での発生地域は拡大傾向にあるので、これまで発生が確認されていない園地においても見回りを行いましょう。発見時には農業総合研究センターまで御連絡ください。

[令和5\(2023\)年度植物防疫ニュースNo. 2](#)を当センターHPに掲載中。

### ○かんしょ サツマイモ基腐病

- ・ 本病は栃木県内での発生は確認されていませんが、令和6(2024)年5月現在、全国34都道県で発生が確認されています。発病すると、地上部の変色及び枯死、イモの腐敗等の症状が現れます。健全な種苗を導入するとともに、発病株が発生した場合は早期発見により被害の拡大を未然に防止することが重要です。[サツマイモ基腐病に注意!](#)を当センターHPに掲載中です。

### 農薬は適正に使用しましょう

- 6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
- 農薬を適正に管理し、容器のラベルをよく読み、農薬による事故等の発生を防止しましょう。
- RACコードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

### 1か月気象予報(予報期間5月18日から6月17日 5月16日気象庁発表)

暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。特に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

項目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	10%	20%	70%
降水量	30%	30%	40%
日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課(Tel 028-665-1244)までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはX(旧ツイッター)「栃木県農政部(@tochigi\_nousei)」、農業総合研究センターホームページ(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>)でもご覧になれます。